企業理念守り突き詰める

事業承継をしたアサヒ住宅 山下 宗一郎社長に聞く

（やました・そういちろう）

―2023年、父の雅史氏（現会長）から社長業を引き継いだ。

「社長就任は私が36歳の時。当社に入社したのは今から13年程前。もともと私はプロの格闘家でしたが、父が入院するほどの大病を患ったため、格闘家の夢をあきらめ、当社で働くことを決めた。私はビジネススキルを一から学ぼうと日本創造教育研究所（日創研）へ通い、後継者に必要な知識とスキルを10年以上の長期に渡って学んだ」

「社長を引き継ぐ前から常務という立場で10年余り社長業の仕事を任されていたので、じっくりと腰を据えて事業承継することができたと感じている」

―事業承継で大切にしたことは。

「当社の企業理念である『共存共栄の精神』を守ること。この企業理念をしっかり守り突き詰めることで、お客さまからしっかり評価していただける。注文住宅における紹介受注は5割以上を占めており、着実に積み上げてきた『アサヒ住宅』のブランド力の証でもある。また、変化を恐れないことも重要なポイントだ。経営戦略や働き方など積極的に取り組んだ」

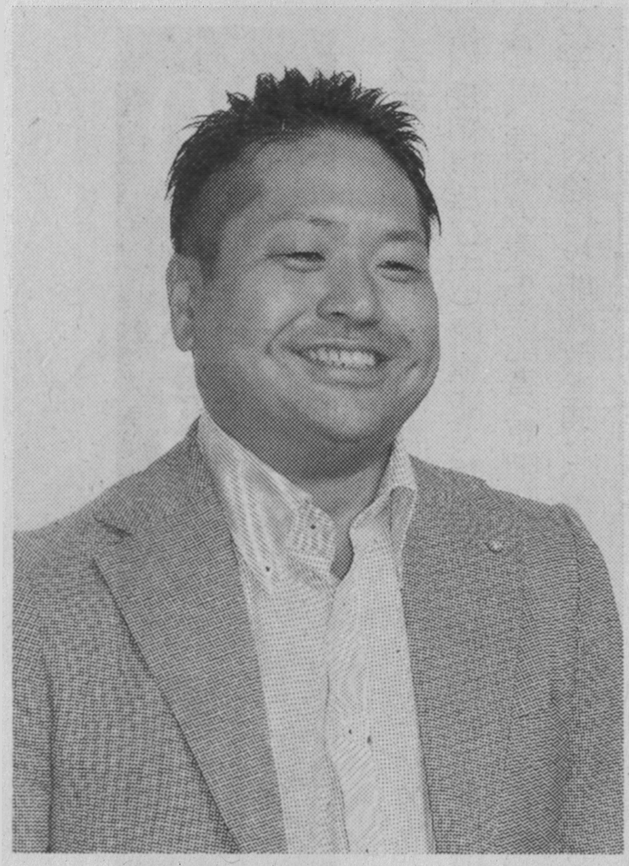
―具体的な事例は。

「働き方の部分では、歩合制を導入しているほか、仕事の家庭の両立の観点から、通常の有給休暇とは別に20日間の特別休暇を取得できる制度を設けた。また、業務の生産性を高めるためのデジタル化を推進。こうした働き方改革のおかげで、10年前と比べ注文住宅の受注や住宅販売棟数が大幅に増えているにもかかわらず、当社の平均残業時間は7～8時間と大幅に削減することに成功している」

「従業員とお客さま（住宅購入者など）との交流を大切にしている。夏は夏祭り、冬は餅つき大会などを定期開催している。ここ数年は新型コロナの影響で中止していたが、来年から復活させる予定だ。お客さまとのふれあいを通じ、喜びの声やお褒めの言葉を頂くことで、従業員の働くモチベーションアップにつながっている」

―これからの成長戦略は。

「住宅の建築コストの高騰や人口減少などで新築住宅の需要縮小が見込まれており、このほど新たに始めたリフォーム事業と中古住宅を再生して販売事業に注力していく。また、経営の多角化も検討したい。住宅以外の異業種への参入も視野に入れ、皆さまから必要とされる企業への成長をめざす」



株式会社アサヒ住宅　本社尾鷲市南陽町９の37。尾鷲市などの東紀州、近隣の和歌山県新宮市などで事業を展開する地元密着の工務店。新築住宅は分譲と注文に対応し、自前で設計から施工までを手掛けている。尾鷲エリア（尾鷲市や北牟婁郡）における住宅着工棟数で14年連続トップを誇る。1995年設立。2023年12月期の売上高は約８億円。従業員は16人。